

12:1 【主】はナタンをダビデのところに遣わされた。ナタンはダビデのところに来て言った。「ある町に二人の人がいました。一人は富んでいる人、もう一人は貧しい人でした。

12:2 富んでいる人には、とても多くの羊と牛の群れがいましたが、

12:3 貧しい人は、自分で買ってきて育てた一匹の小さな雌の子羊のほかは、何も持っていませんでした。子羊は彼とその子どもたちと一緒に暮らし、彼と同じ食べ物を食べ、同じ杯から飲み、彼の懷で休み、まるで彼の娘のようでした。

12:4 一人の旅人が、富んでいる人のところにやって来ました。彼は、自分のところに来た旅人のために自分の羊や牛の群れから取って調理するのを惜しみ、貧しい人の雌の子羊を奪い取り、自分のところに来た人のために調理しました。」

12:5 ダビデは、その男に対して激しい怒りを燃やし、ナタンに言った。「【主】は生きておられる。そんなことをした男は死に値する。12:6 その男は、あわれみの心もなく、そんなことをしたのだから、その雌の子羊を四倍にして償わなければならない。」

12:7 ナタンはダビデに言った。「あなたがその男です。イスラエルの神、【主】はこう言われます。『わたしはあなたに油を注いで、イスラエルの王とした。また、わたしはサウルの手からあなたを救い出した。』

12:8 さらに、あなたの主君の家を与え、あなたの主君の妻たちをあなたの懷に渡し、イスラエルとユダの家も与えた。それでも少ない

というのなら、あなたにもっと多くのものを増し加えたであろう。

12:9 どうして、あなたは【主】のことはを蔑み、わたしの目に悪であることを行っただのか。あなたはヒッタイト人ウリヤを剣で殺し、彼の妻を奪って自分の妻にした。あなたが彼をアンモン人の剣で殺したのだ。

12:10 今や剣は、とこしえまでもあなたの家から離れない。あなたがわたしを蔑み、ヒッタイト人ウリヤの妻を奪い取り、自分の妻にしたからだ。』

12:11 【主】はこう言われる。『見よ、わたしはあなたの家の中から、あなたの上にわざわいを引き起こす。あなたの妻たちをあなたの目の前で奪い取り、あなたの隣人に与える。彼は、白昼公然と、あなたの妻たちと寝るようになる。』

12:12 あなたは隠れてそれをしたが、わたしはイスラエル全体の前で、白日のもとで、このことを行う。』」

12:13 ダビデはナタンに言った。「私は【主】の前に罪ある者です。」ナタンはダビデに言った。「【主】も、あなたの罪を取り去ってください。あなたは死なない。12:14 しかし、あなたはこのことによって、【主】の敵に大いに侮りの心を起こさせたので、あなたに生まれる息子は必ず死ぬ。」

12:15 ナタンは自分の家へ帰って行った。【主】は、ウリヤの妻がダビデに産んだ子を打たれたので、その子は病気になった。

誰も知らなくても主はダビデの罪をご存知です。から、それを放っておくことは有り得ません。主は預言者ナタンを遣わして、ダビデに自分の罪を

気づくように導きました。

ダビデは様々なことを言ったかも知れませんが、聖書は「私は主に対して罪を犯した」ということばだけを記しています。悔い改めとは、それに付随する様々な現象が条件なのではなく（例えば号泣したとか、大人数の前で告白したなど）、主の前で素直に罪を認めただろうかが大切なのです。

ダビデはそれによって王であることや命は「見過ご」されましたが、この後多くの困難を抱えることになりました。罪は悔い改めによって主からの罰は免れますが、しかしその報いは身に負う事になります。しかし主はその困難をも、憐れみのゆえに支えてくださいます。悔い改めに遅いことはありません。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

